

令和7年度
学校評価報告書



綾瀬市立綾西小学校

凡例

- そう思う
- ▨ ややそう思う
- ▩ あまり思わない
- ▧ そう思わない
- わからない

〔実施日／調査対象〕 令和7年12月19日／児童 535人
 令和7年12月19日／保護者 320人
 令和7年12月19日／教職員 32人

1 学校は、「よく考え、進んで学習する子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。

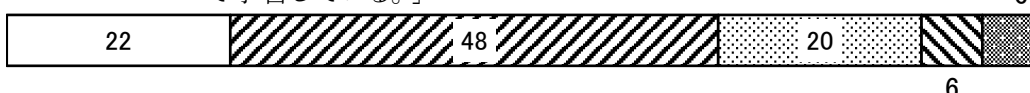
学校の取組

本校の学校目標は、「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「じょうぶな子」「ねばり強い子」です。また目指す児童像を「進んでよりよい生活をつくり出そうとする子」とし、学校目標の具現化を図っています。今年度は、『子どもが『考える』授業～そのためのひと工夫～』を研究主題として2年目の授業改善に取り組みました。授業の中で、児童一人ひとりが学習課題を自分事として考え、学習に前向きに取り組む姿を目指したいと考えています。各学年で「問い」の質を精査し、児童が自ら課題を見つける授業展開の工夫に取り組みました。また、今年度刷新した学習用タブレット端末を思考の可視化ツールとして日常的に活用しました。

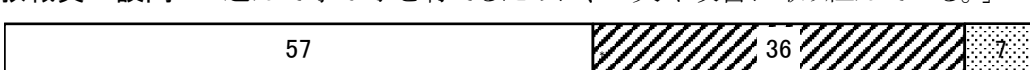
児童 設問 「学校では、進んで学習している。」



保護者 設問 「学校が学ぶ場の工夫や改善に取り組んでいることにより、お子さんは進んで学習している。」



教職員 設問 「進んで学ぶ子を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。」



今後に向けて

児童の肯定的回答が80%を維持する一方、「そう思う」の割合が前年度の44%から40%へ微減しています。

次年度は、単一の教科に閉じない「教科横断的な視点」を重視し、総合的な学習の時間（低学年においては生活科）を核として、国語の表現力、算数の論理的思考、社会や理科の探究プロセスを相互に機能させる学習デザインを推進します。具体的には、実社会の課題（福祉や地域活性化等）をテーマに、地域の人や施設との関わりを通して、各教科で得た知識を活用して解決策を導き出す学習活動を意図的・計画的に配置します。こうした『知識の活用』を伴う活動を通じて、児童が学びの有用性を実感し、未知の課題に対しても主体的かつ協働して解決に向かおうとする、生涯にわたる学習態度の基盤を育成していきます。

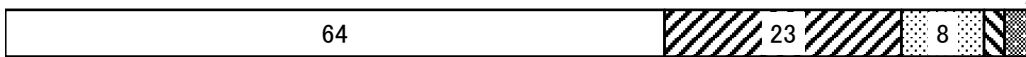
【凡例】 □ そう思う ▨ ややそう思う ▩ あまり思わない ▪ そう思わない ▫ わからない

2 児童は、学校行事や特別活動にねばり強く取り組んでいる。

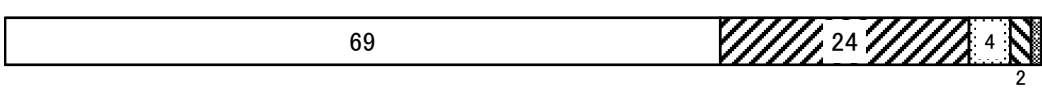
学校の取組

運動会や学年発表会などの行事において、児童一人ひとりに自己目標を設定させ、活動後には自身の取り組みに対する振り返りをさせています。一つひとつの活動に自分事として取り組み、その成果や成長を自分自身でも感じられるようにすることがねらいです。
また、異学年交流「にこにこ活動」を軸に、最高学年の6年生がリーダーシップを発揮する場面を意図的に創出するとともに、すべての児童に思いやりの心や協力し合う態度を育て、心豊かでたくましい実践力を身につけさせています。

児童 設問 「運動会や遠足など学校の行事が楽しみで、がんばって取り組んだ。」



保護者 設問 「お子さんは、運動会や遠足などの行事を楽しみにして、意欲的に取り組んでいる。」



今後に向けて

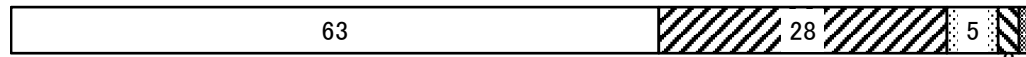
児童・保護者ともに90%を超える高い評価を得ています。行事での成功体験が、日常の困難な学習課題に対しても「ねばり強く取り組む力」として結びついていくよう、活動後の言語化や教師や児童間での称賛の機会をさらに充実させていきます。また、特別活動の中では、特に異学年交流「にこにこ活動」を継続し、集団の中で自分の役割を自覚するとともに、自分のよさを発揮し、豊かな自己実現を図ることができるようにしていきます。

3 学校は、思いやりのある子を育てる指導を積極的に行っている。

学校の取組

学校教育目標に「思いやりのある子」を掲げ、思いやりを持って人と関わる力の育成を図っています。その中で、合言葉を「笑顔であいさつ」とし、まずは教師が進んであいさつをすることを心がけています。また児童会による「あいさつ運動ウィーク」や「正しい廊下歩行ウィーク」など、児童主体の肯定的な風土づくりにも取り組みました。さらに、総合的な学習の時間や生活科の学習を中心に地域の方々との交流や「感謝の集い」を行い、他者と関わる力の育成に努めました。

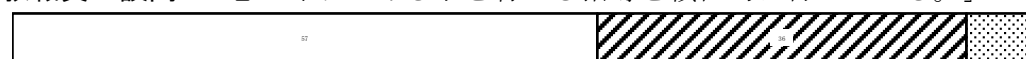
児童 設問 「進んであいさつをして、友だちともなかよくしている。」



保護者 設問 「お子さんは、友だちともなかよくして、挨拶もよくできている。」



教職員 設問 「思いやりのある子を育てる指導を積極的に行っている。」



今後に向けて

約90%の児童・保護者が、児童は「あいさつをして、友だちともなかよくしている」と評価しています。あいさつは、家族や友だち、先生に向けるものだけではなく、地域の方々にも児童が進んでできるようにしたいと考えています。そのためには、地域の方々がいまも児童を見守り、支えてくださっていることが実感できるような学習や体験を積み重ねさせたいと考えています。今後もコミュニティ・スクールを機能させ、地域の方々に関わり合える学習活動をデザインします。また、「ふれあいランド (PTA主催)」や「感謝の集い」などの行事を継続させ、より一層、児童が地域とのつながりを感じられるようにしていきます。

〔凡例〕 □ そう思う ▨ ややそう思う ▩ あまり思わない ▪ そう思わない ▫ わからない

4 児童は友人や先生との学校生活に満足している。

学校の取組

本校の児童指導の目標は、「児童一人ひとりの健全な発育成長を促し、望ましい集団生活の基礎基本を身に付けさせる」です。各学級で『綾西小のやくそく』の確認をしたり、『スクールアンケート』の実施を行ったりして、児童が安全・安心して学校生活を送れるように努めました。また、児童一人ひとりの困り感に気づけるように、毎月開催する児童指導委員会において、児童の情報交換を全職員で行ったり、支援教育の研修会を実施したりしました。

児童 設問 「友だちとの学校生活を楽しんでいる。」



今後に向けて

約90%の児童が、「友だちとの学校生活を楽しんでいる。」と回答していますが、残りの約10%の児童が抱える不安や「分からない」という回答に真摯に向き合う必要があります。今後は、年3回の「学校生活のアンケート」をより精緻に分析し、個々の児童が直面する困難を早期に察知するだけでなく、それを乗り越える「非認知能力」の育成へとつなげていきます。具体的には、自らの感情を客観的に見つめ、他者と協働的に対話する活動を意図的に取り入れることで、困難に直面しても他者に助けを求め、立ち直れる心の力を育みます。全ての児童が「自分は大切な存在であり、集団の中に居場所がある」という安心感を基盤に、互いの個性を認め合いながら、新たな挑戦へ踏み出せる学校風土の構築を目指します。

5 学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。

学校の取組

いじめの早期発見のため、毎月「スクールアンケート」を実施しています。学校内で嬉しかったことやいやなこと、いやな思いをしている友だちのこと等を担任が集約しています。問題を把握した場合は、子どもから聞き取りをして、解決済みか継続中なのかを記載して、情報を児童指導グループで集約しています。そして、いじめが認められた場合は、「いじめ防止基本方針」に則り、いじめ防止委員会や児童指導委員会、教育相談、ケース会議を開き、チームを組んで情報交換や問題の早期解決に向けて取り組んでいます。

保護者 設問 「学校では、月1回のスクールアンケート等に取り組み、いじめの早期発見・再発防止に努めている。」



教職員 設問 「学校では、月1回のスクールアンケート等に取り組み、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に努めている。」



今後に向けて

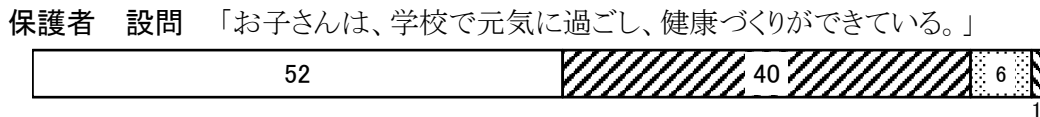
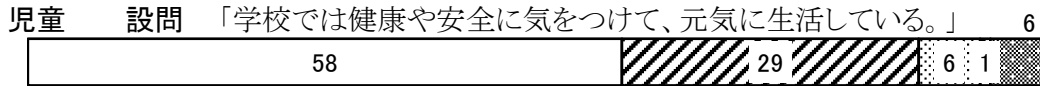
教職員の肯定的回答90%に対し、保護者の「そう思う」は21%にとどまり、強い認識のギャップが見られます。教職員はいじめの早期発見・再発防止に努めています。いじめ対応のプロセスや学校の未然防止策を懇談会や便りにより具体的に発信し、安心感を得たいと考えています。また、いじめを未然防止という観点から、発達支持的児童指導として、児童一人ひとりの個性の発見とよさや可能性の伸長を意識し、日ごろからの観察や声かけを積極的に行っています。

【凡例】 □ そう思う ▨ ややそう思う ▩ あまり思わない ▪ そう思わない ▧ わからない

6 学校は、じょうぶな子を育てる指導を積極的に取り組んでいる。

学校の取組

「じょうぶな子」を学校教育目標の一つに掲げ、自分の健康・安全を守る力の育成を図っています。その中で、毎年避難訓練や不審者対応訓練を定期的実施しています。災害時に取るべき行動や、持つべき意識について、児童とともに考え、訓練を行っています。また、学期ごとに行う身体計測時には、養護教諭より健康な体、病気・けがの防止についての指導をしたり、保健の授業（3年生以上）で健康・安全についての知識を学習したりしています。



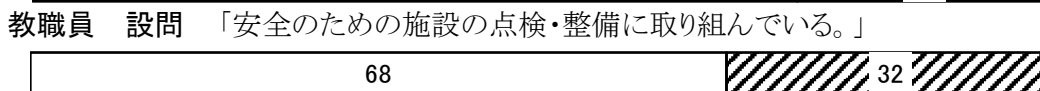
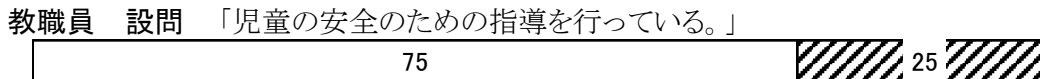
今後に向けて

約90%の児童・保護者が、「健康や安全に気を付けて、元気に生活している」と答えています。避難訓練は、児童への事前告知をしない訓練を3学期の休み時間（2学期から延期）に行いましたが、児童の迅速な避難行動を見ることができました。災害はいつ起きるか分かりません。自身の身を守るための正しい行動ができるように、学校のきまりを常日頃から守れるように指導していきます。また、学校保健員会を開催し、小学生のうちに未成年による喫煙・アルコールは身体の成長に悪影響を及ぼすことを学習させ、喫煙防止や薬物乱用防止についての正しい知識を身につけさせます。

7 学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。

学校の取組

毎月初めに安全点検日を設けて、校舎内外の安全点検を全職員で実施しています。電気安全・エレベーター、非常放送等の各設備や固定遊具の損傷等については、委託業者の定期点検も受けています。また、一斉下校訓練を年1回実施し、併せて通学路の危険箇所も点検しています。さらに、警察署の協力による交通安全教室、避難訓練での指導を計画し、実施するようにしています。また、今後も「消防防災計画」や「学校危機事案対応マニュアル」を不断に見直し、実効性のあるものにしていきます。



今後に向けて

教職員の100%が安全指導と点検の取り組みを肯定しています。警察・地域と連携した交通安全教室や一斉下校訓練、引き渡し訓練を引き続き実施していきます。また、月1回実施している職員による安全点検を継続するとともに、校内の故障箇所や老朽箇所については市教育委員会と連携し、迅速に修繕対応を行います。

[凡例] そう思う ややそう思う あまり思わない そう思わない わからない

8 学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。

学校の取組

個別に支援を要する子ども達には、教育相談コーディネーターを中心に児童指導支援担当教員、学習支援者、サポートルームアシスタント、スクールカウンセラー等の各担当が連携を図り、組織的に対応しています。事案によっては、他機関の協力を得ながら随時ケース会議を設けて、よりよい学習環境が保障できるように教職員全員で支援体制を組んでいます。また、学習支援者が、特に支援を要する児童について個に応じた指導・支援を行い、授業進度に沿った学力の定着を目指したり、不登校傾向のある児童に対してサポートルームアシスタントが校内支援教室（ほっとルーム）での登校支援を目指したりしています。

教職員 設問 「児童に応じた支援の工夫をしている。」



今後に向けて

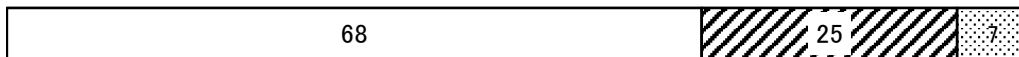
個別に支援が必要な児童には、保護者の要望を踏まえて保護者・学校・専門機関相談員との協議を速やかに行い、一人ひとりに応じた教育環境を整えることに努めています。今年度も、集団での学習が難しい児童や不登校傾向の児童の対応のために、「ほっとルーム」を活用し、個別指導体制を強化しました。また、スクールカウンセラーによる教育相談も積極的に行い、支援が必要な児童に対し組織的な対応を行うことができました。今後も、教育相談コーディネーターや児童指導担当教員が窓口となり、学習支援者と担任、養護教諭、サポートルームアシスタント、スクールカウンセラーとの連携のもと、支援が必要な児童に適切な学習支援が実施できるようにしていきます。

9 学校は、校長を中心とした運営組織になっている。

学校の取組

「学校運営組織」として、総括教諭を中心とした4グループを組織し、学校経営方針の具現化を目指しています。校長の経営方針を受け、教頭、総括教諭をメンバーとする週1回の企画会議の中で、密なる連絡を図っています。

教職員 設問 「グランドデザインをもとに校長を中心とした運営組織となっている。」



今後に向けて

各総括教諭、学年代表を中心に全職員が、校長がグランドデザインで掲げている目指す児童像の実現に向けた計画、実践、振り返りを行うことができました。ただし、教員の「あまり思わない」という回答が7%存在します。経験の浅い教員から経験を積んだ教員まで、学校経営の意図を確実に浸透させなければいけません。担当総括教諭が中心となって、各グループが連携するとともに、各教職員が自身のよさや得意を発揮できるようにし、組織的で効率的な運営が機能するように取り組んでいきます。

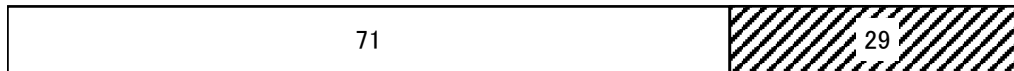
[凡例] □ そう思う ▨ ややそう思う ▩ あまり思わない ▧ そう思わない ▦ わからない

10 学校は、教職員の授業力を高めるための校内研究の取組に力を入れている。

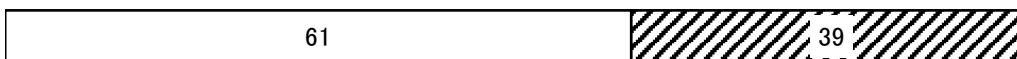
学校の取組

校内研究を中心に据えて、教師が互いに授業を見合うことで、授業改善を図り、指導力を高め合う取組を行っています。また、校内研究にカリキュラムマネジメントの視点を取り入れ、つながりを意識した授業づくりを行っています。さらに、他校の研究発表会への積極的な参加や、外部講師を招聘した研修を実施しました。

教職員 設問 「学校は教職員の授業力を高めるために、校内研究の取組に力を入れている。」



教職員 設問 「学校は教職員の力量を高めるために、必要に応じた校内研修等の取組に力を入れている。」



今後に向けて

昨年度に引き続き、「進んでよりよい生活をつくり出そうとする子」を目指して、『子どもが『考える』授業～そのためのひと工夫～』をテーマにした授業改善に取り組みました。教員の肯定回答は100%であり、研究意欲が非常に高い状態です。児童がおもしろいと感じる授業やわくわくする授業をすることは、教師として常に追究したいことです。今後も、変化の大きい社会の中で、児童にとってよりよい教育とは何かを考えながら、全職員で授業力の向上に努めます。

11 学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。

学校の取組

児童指導・支援グループが中心となり、児童の諸問題を取りまとめて、状況に応じてケース会議を開いたり、相談機関の協力を得たりしながら対処しています。年度初め・学期末の児童指導全体会や、毎月の児童指導委員会、職員会議で児童の情報交換を行い、健康面も含めたきめ細やかな指導について話し合いを行っています。さらに、教育相談コーディネーターと児童指導支援担当教員を中心として、支援体制を充実させ、児童の実態をより把握できるようにしています。

保護者 設問 「学校では、子どものよさを大切にした指導をしている。」



教職員 設問 「学校は児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。」



今後に向けて

児童に応じた適切な指導を行うために、月に1回開かれる児童指導委員会や職員会議の場において、児童の情報や変化の様子を確認し、今後の関わり方や支援のあり方などを共通理解しました。また、スクールアンケートで問題を把握し、迅速にチームで対応しました。今後も問題行動の状況把握・報告・協議・関係機関への連絡・対応などを迅速に行い、早期解決を図るようしていきます。

[凡例]	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	わからない
------	------	--------	---------	--------	-------

12 学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。

学校の取組

「学校だより」、「学年だより」、ホームページを通して、保護者や地域に学校の教育活動の様子を伝えています。懇談会や個別面談などでも本校の教育活動について理解を得られるようにしています。また、必要に応じて家庭に連絡を取り、児童指導上の事柄を伝えるようにしてきめ細かい対応を心がけています。さらに、学校運営協議会を年4回開催し、保護者や地域の方と学校運営について熟議する場を設けています。

保護者 設問 「学校の様子を学校、学年だより等で知ることができている。」



教職員 設問 「学校は学校だより・学年だより等を通して、学校の情報を保護者に提供し、連携を図る取り組みをしている。」



今後に向けて

個別面談や授業参観、運動会や学年発表会等を通じて、保護者の皆様に学校の様子を直接見ていただきました。また、ホームページでは学校だよりや学校運営協議会の様子などをお知らせしました。今後も、学校だよりや学年だより等の内容を精査し、地域・家庭に配付する中で、教育活動の実践を伝えていきます。また、校内の掲示物も工夫し、保護者が来校した際に学校や児童の取り組みを「見える化」していきます。そして、情報発信に留まらず、実際に学校での様子を見ていただく機会の確保を検討していきます。

さらに、学校運営協議会をさらに活性化し、保護者、地域に開かれた学校づくりを目指していきます。